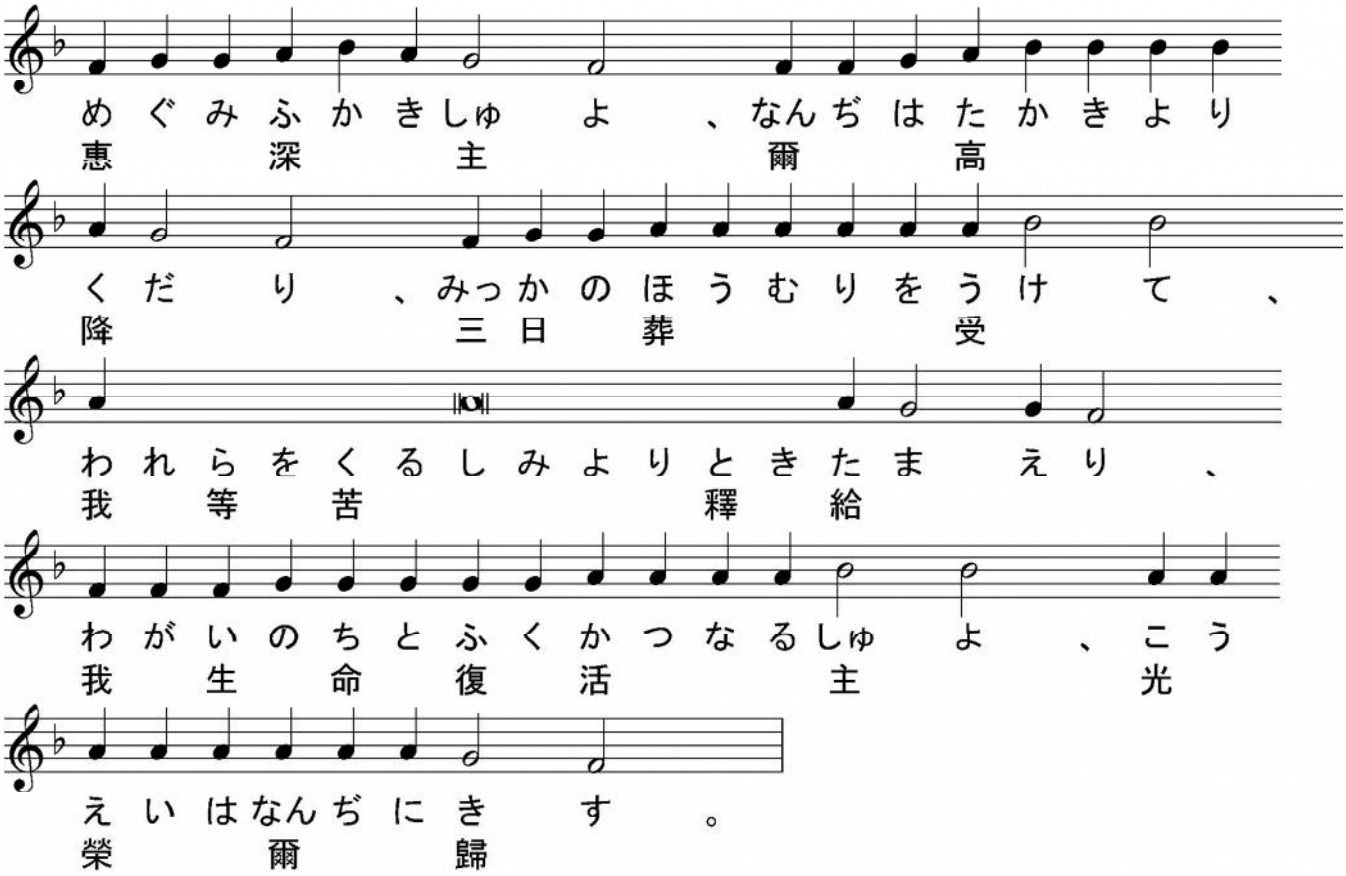
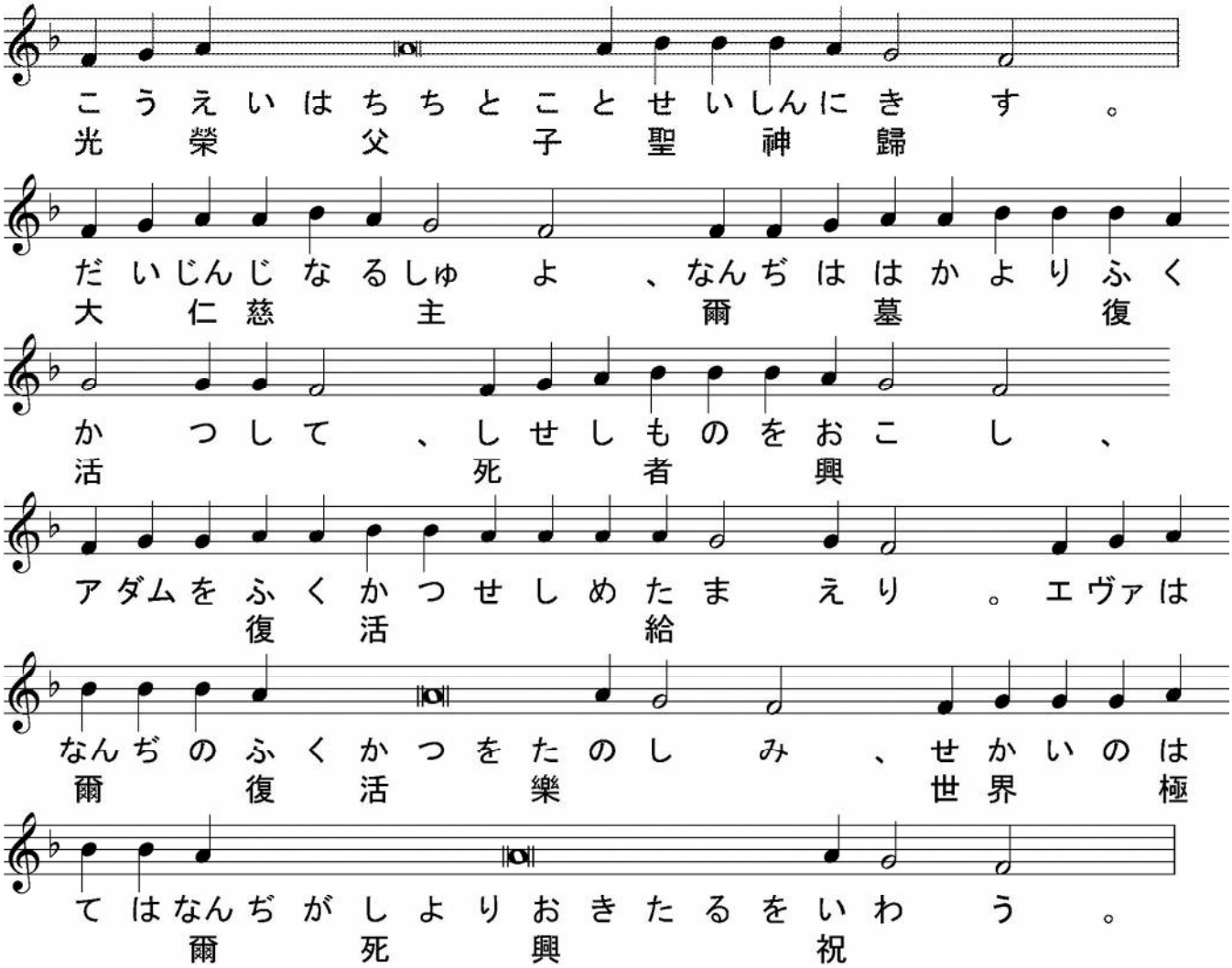
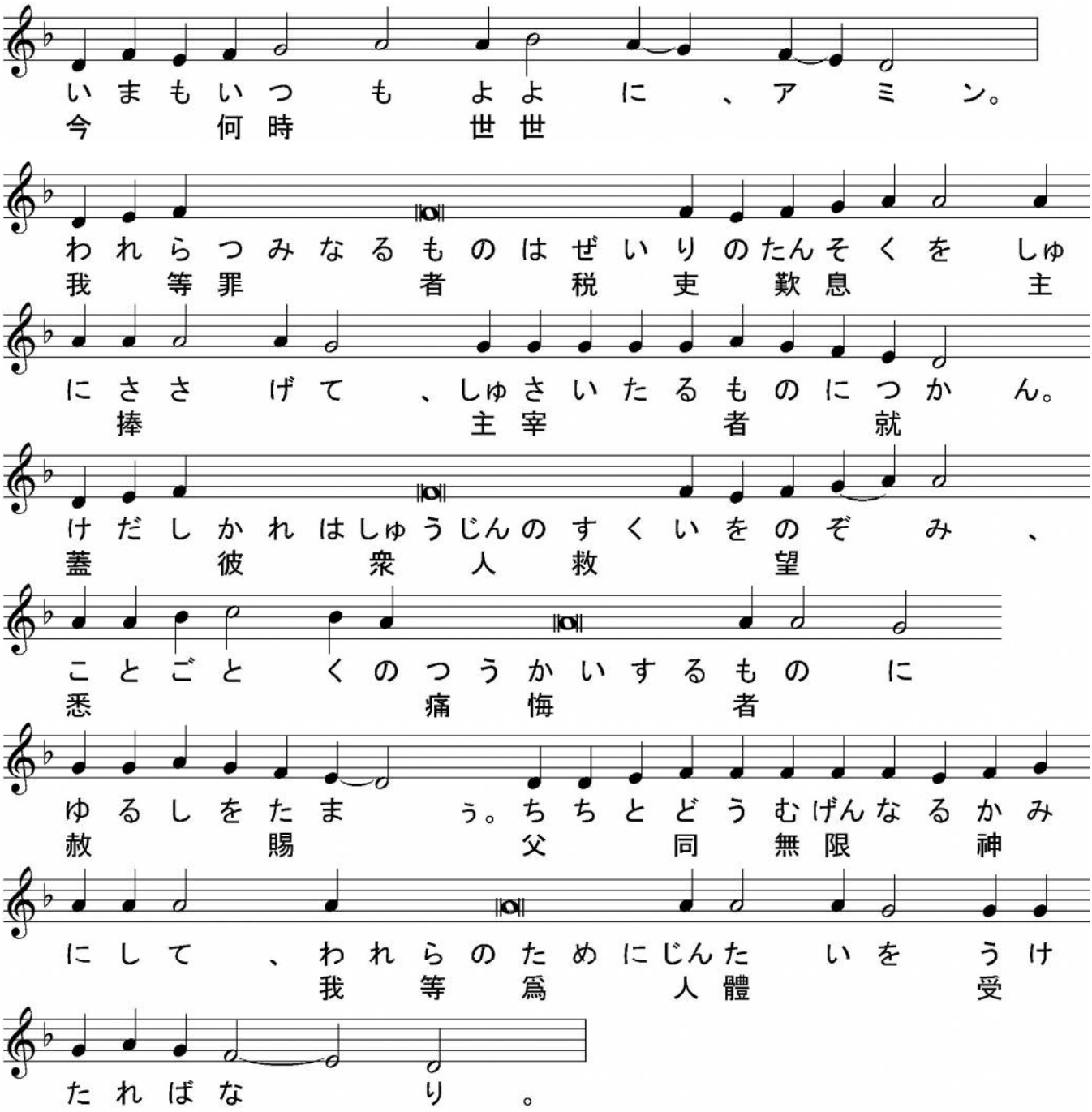
【　復活のトロパリ　第８調　】



【　復活のコンダク　第８調　】



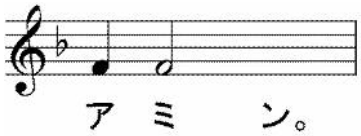
【　三歌齋經のコンダク　第３調　】



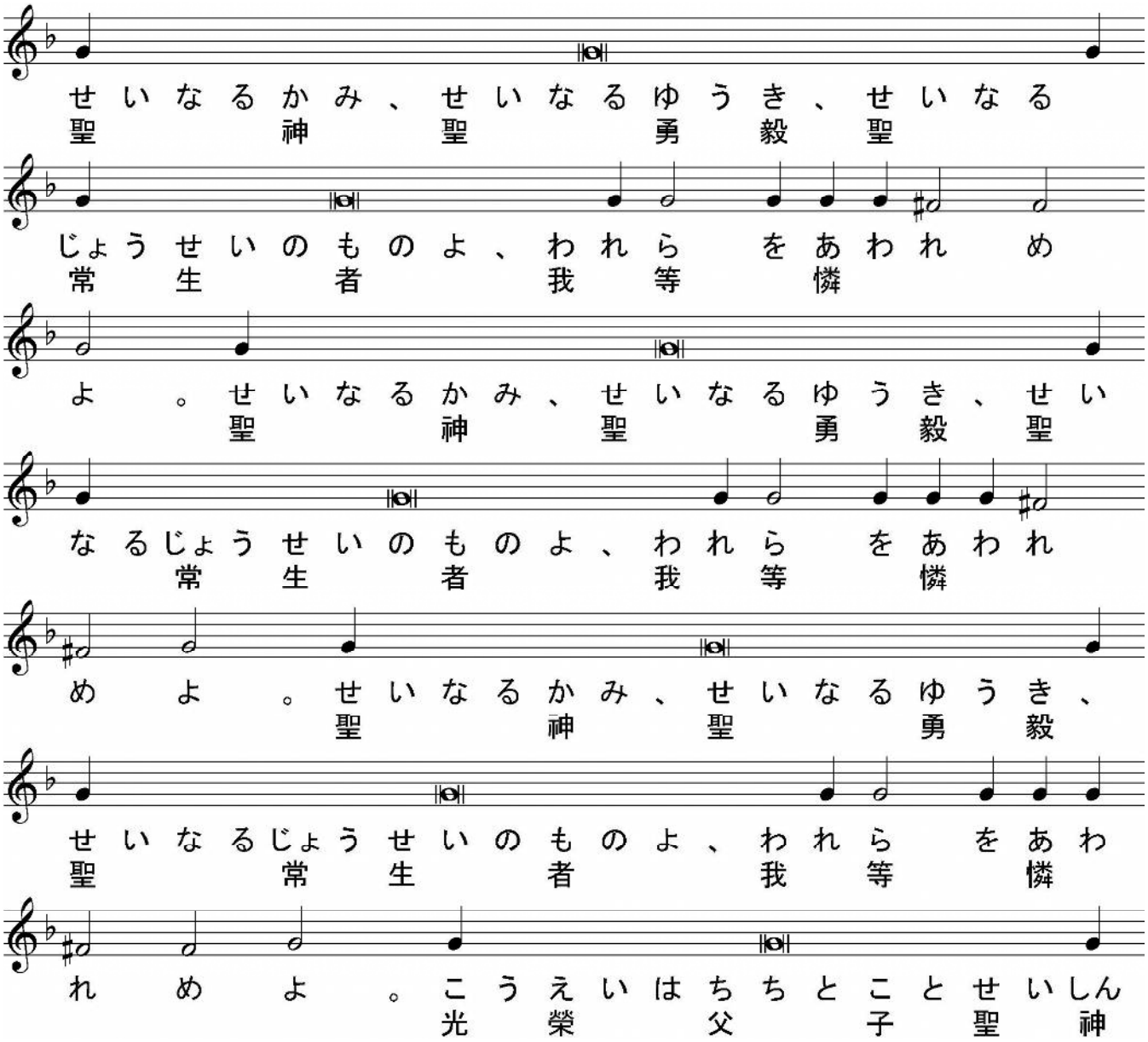
司祭）（　黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と

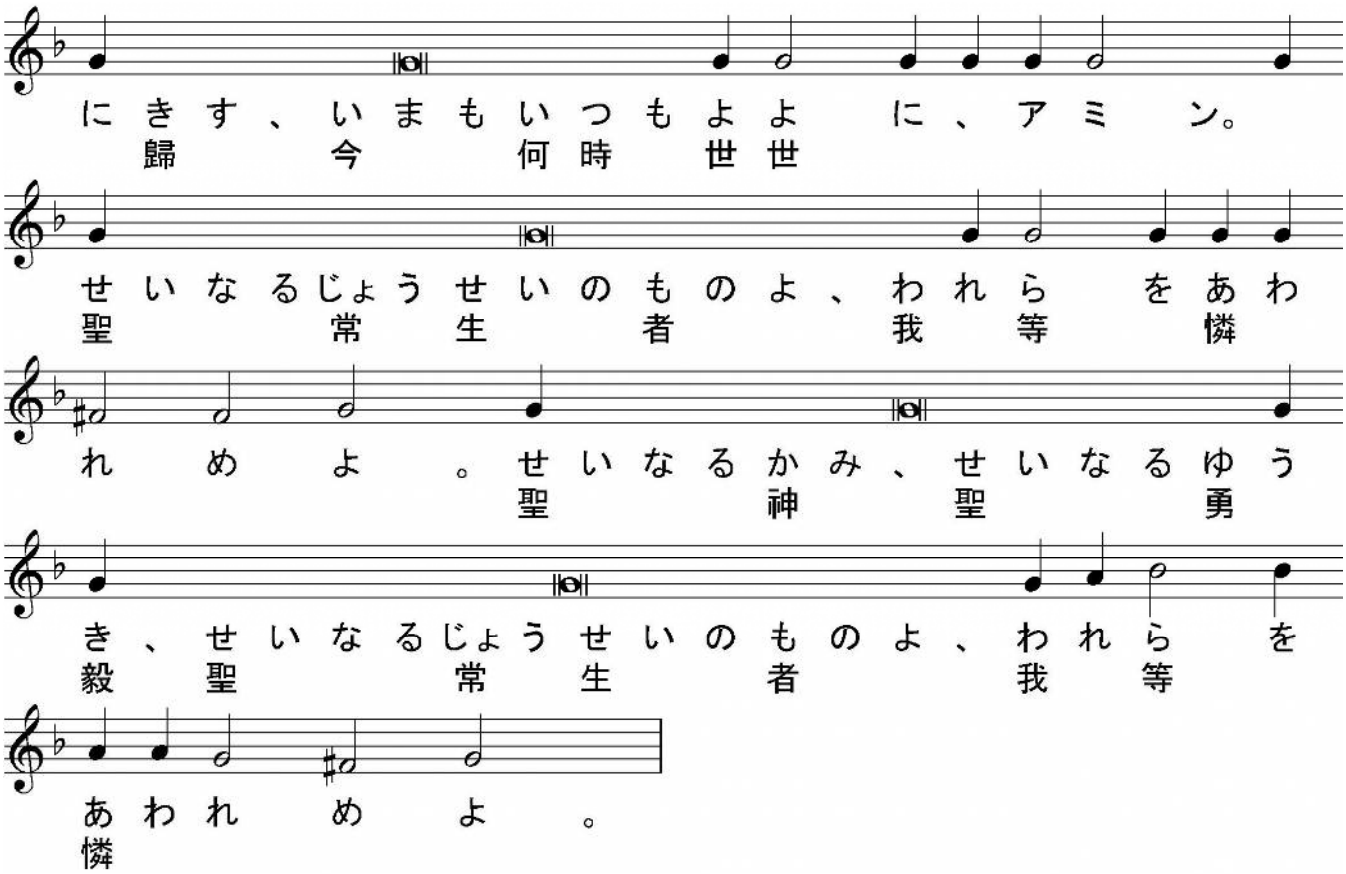
なしし主宰よ、爾　親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が　靈　と　體　を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の　喜　を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、　）

司祭）　蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾　父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



【　聖三祝文　】





司祭）（ 默誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 ）

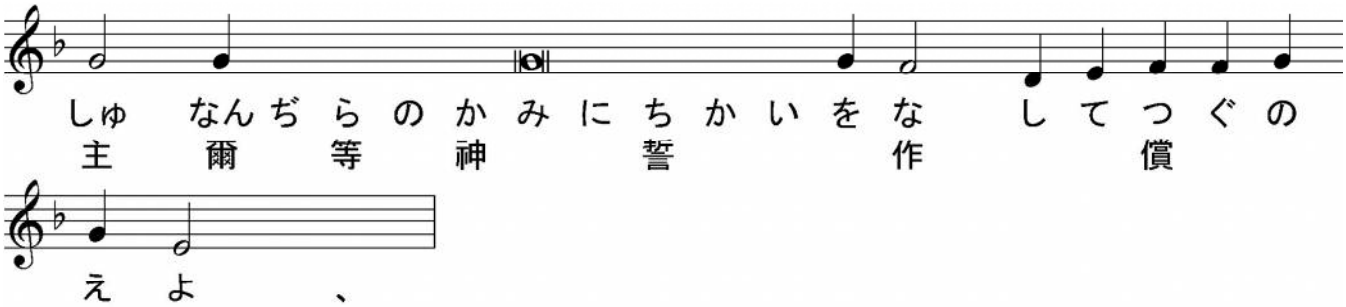
【 提綱 主日第８調 】

司祭） 愼みて聽くべし、衆人に平安、

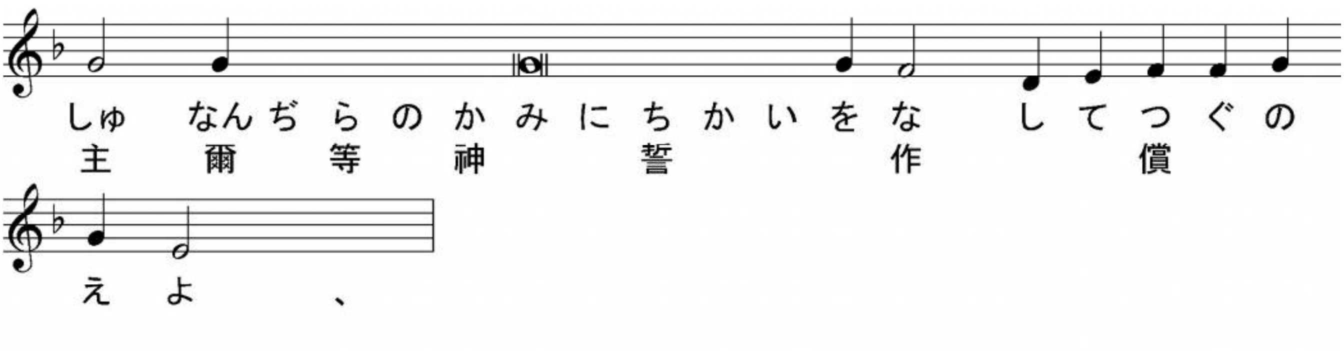
誦經） 爾の神にも、

司祭） 睿智、

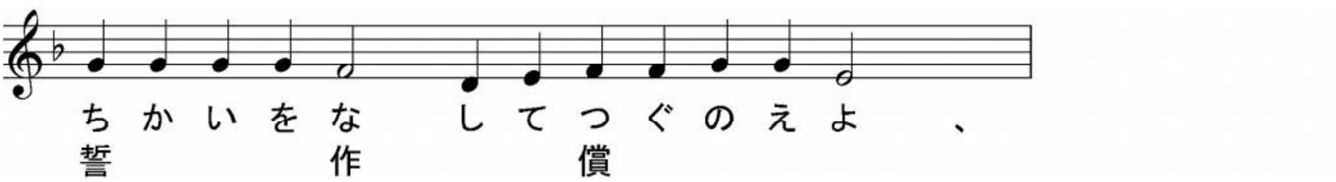
誦經） プロキメン、主爾等の神に誓を作して償えよ、



誦經） 神はイゥデヤに知られ、其名はイズライリに大なり、



誦經) 主爾等(しゅなんぢら)の神(かみ)に



【 使徒經(アポストロス)　296端　ティモフェイ後書3章10～15節 】

司祭) 睿智(えいち)、

誦經) 聖使徒(せいしと)パヴェルがティモフェイに達(たつ)する後書(こうしょ)の讀(よみ)、

司祭) 謹(つつし)みて聽(き)くべし、

誦經) 子(こ)ティモフェイよ、爾(なんぢ)は我(わ)が教訓(きょうくん)、品行(ひんこう)、意志(いし)、信仰(しんこう)、寛容(かんよう)、仁愛(じんあい)、忍耐(にんたい)、我(わ)がアンティオキヤ、イコニヤ、リストラに在(あ)りて遇(あ)いし所(ところ)の窘逐(きんちく)、及(およ)び苦難(くなん)に於(おい)て、我(われ)に從(したが)えり、此(こ)の窘逐(きんちく)は我之(われこれ)を忍(しの)び、主(しゅ)は我(われ)を悉(ことごと)く其中(そのうち)より救(すく)えり。凡(およ)そ敬虔(けいけん)を以(もつ)て、ハリストス イイススに在(あ)りて生(いのち)を度(わた)らんと欲(ほつ)する者(もの)は、皆窘逐(みなきんちく)せられん。惡(あ)しき人(ひと)、及(およ)び人(ひと)を欺(あざむ)く者(もの)は、益惡(ますますあく)に進(すす)みて、人(ひと)を惑(まど)わし、自(みづから)も惑(まど)わされん。然(しか)れども爾(なんぢ)は學(まな)びし所(ところ)の、及(およ)び爾(なんぢ)に託(たく)せられし所(ところ)に居(お)れ、爾誰(なんぢだれ)より學(まな)びしかを知(し)ればなり。且爾(かつなんぢ)は幼(いとけなき)より聖書(せいしょ)を知(し)る、卽(すなわち)善(よ)く爾(なんぢ)に、ハリストス イイススに於(お)ける信(しん)に由(よ)りて、救(すくい)を得(え)しむる智慧(ちえ)を與(あた)うる者(もの)なり。

＊＊＊

（比較用　口語訳）あなたは、わたしの教、歩み、こころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、それから、わたしがアンテオケ、イコニオム、ルステラで受けた数々の迫害、苦難に、よくも続いてきてくれた。そのひどい迫害にわたしは耐えてきたが、主はそれらいっさいのことから、救い出して下さったのである。いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっていなさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに

与えうる書物であることを知っている。

＊＊

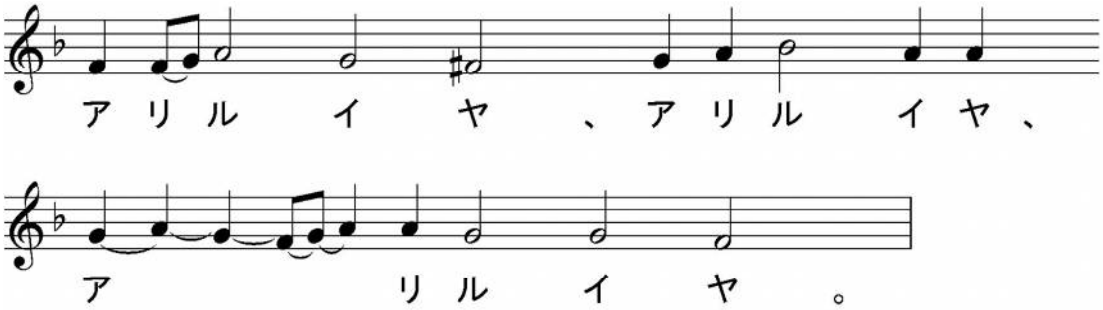
【　アリルイヤ　主日第８調　】

司祭）　爾(なんぢ)に平安(へいあん)、

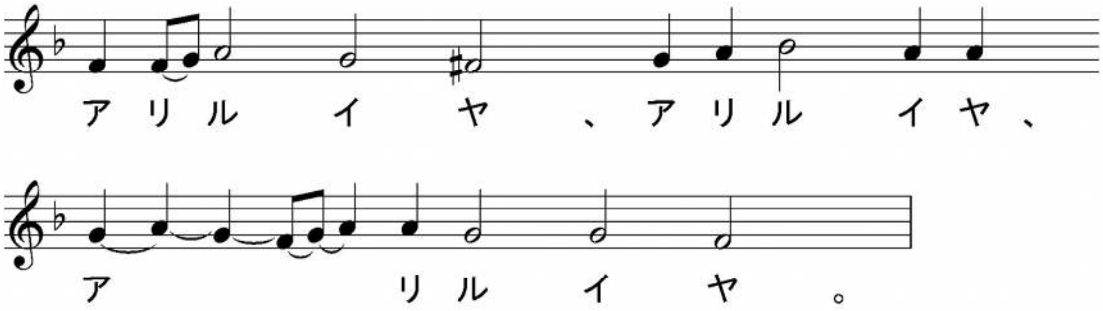
誦經）　爾(なんぢ)の神(しん)にも、

司祭）　睿智(えいち)、

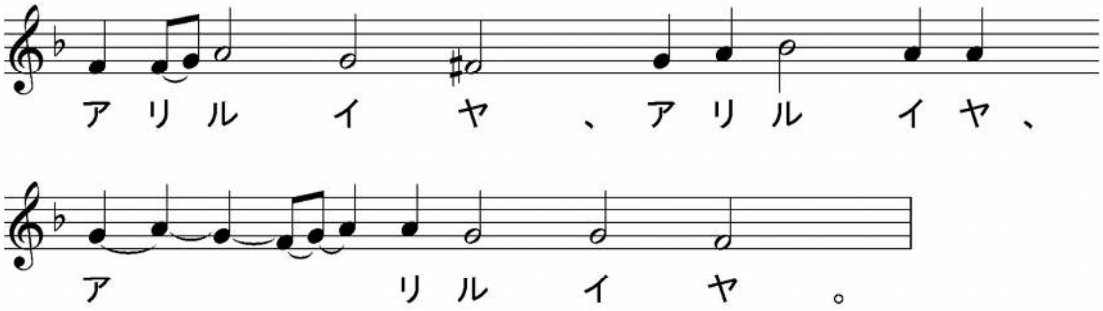
誦經）アリルイヤ、



誦經）來(きた)りて主(しゅ)に歌(うた)い、神我(かみわ)が救(すくい)の防固(かためよ)に呼ばん、



誦經）讃揚(さんよう)を以(もつ)て其顏(そのかんばせ)の前(まえ)に進(すす)み、歌(うた)を以(もつ)て彼(かれ)に呼(よ)ばん、

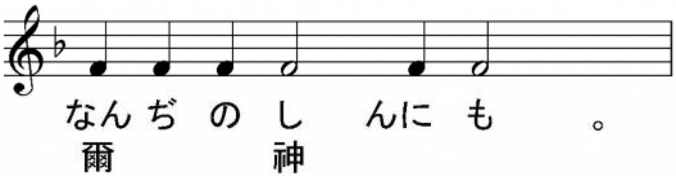


司祭）（　黙誦：人(ひと)を愛(あい)する主宰(しゅさい)よ、我(わ)が心(こころ)に神(かみ)を知(し)る智慧(ちえ)の浄(いさぎよ)き光(ひかり)を輝(かがや)かし、我(わ)が思念(ねん)の目(め)を啓(ひら)きて、爾(なんぢ)が福音(ふくいん)の教(おしえ)を悟(さと)らしめ給(たま)え、我(わ)が衷(うち)に爾(なんぢ)の福(ふく)たる誡(いましめ)を畏(おそ)るる畏(おそれ)をも入(い)れて、我等(われら)が悉(ことごと)くの肉體(にくたい)の慾(よく)を踏(ふ)み、凡(およ)そ爾(なんぢ)の喜(よろこ)ぶ

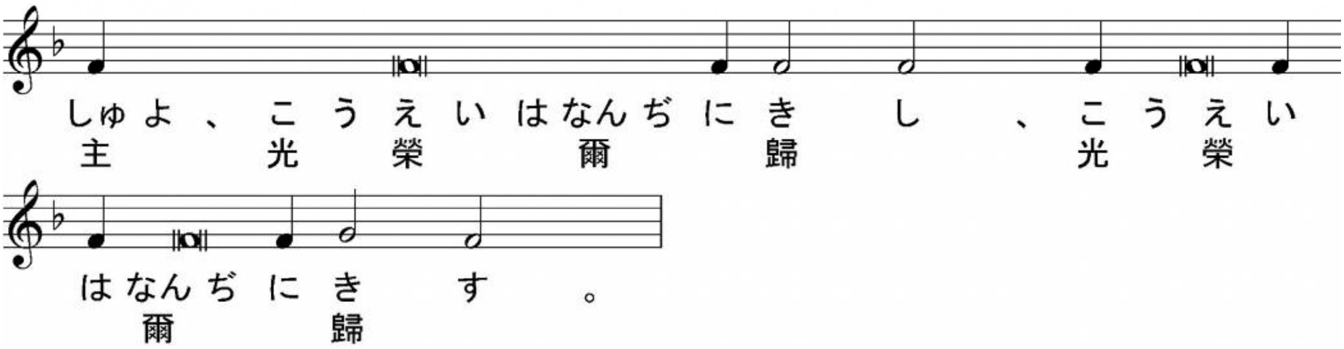
所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。　）

【　福　音　經　ルカ福音書89端　18章10～14節　】

司祭）睿智、粛みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、



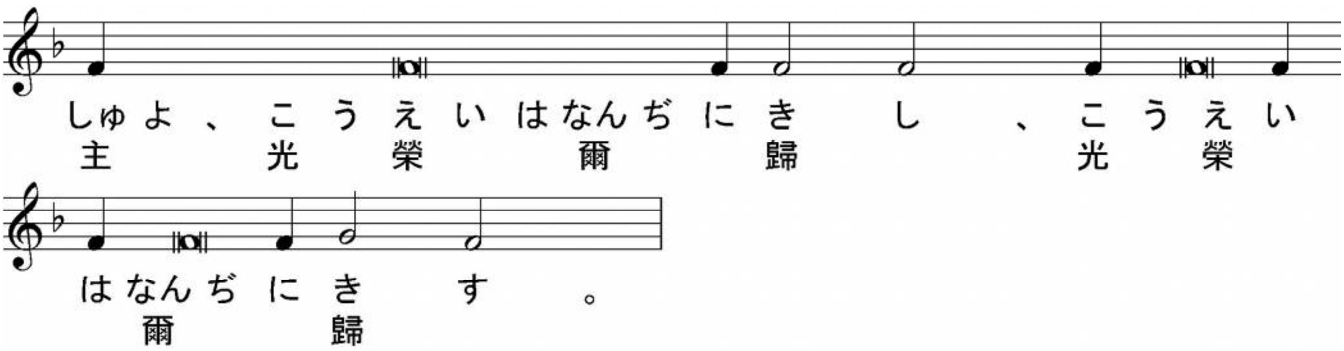
司祭）謹みて聽くべし、主は左の譬を設けて曰えり、二人祈禱せん爲に殿に登れり、一はファリセイ、一は税吏なり。ファリセイ立ちて、己の衷に斯く禱れり、神よ、我爾に感謝す我他人の殘酷、不義、姦淫なる如く、或は此の税吏の如くならざるを以てなり。我一七日に、二次齋し、凡そ得る所の十分の一を獻ぐと。税吏は遠く立ちて、敢て目を擧げて天を仰がず、乃膺を拊ちて曰えり、神よ、我罪人を憐めと。我爾等に語ぐ、此の人は彼の人よりは義とせられて、家に歸れり。蓋凡そ自ら高くする者は卑くせられ、自ら卑くする者は高くせられん。

＊＊＊

（比較用　口語訳）「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりはパリサイ人であり、もうひとりは取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしください』と。あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人

であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。

＊＊



※聖体礼儀③（金口イォアン聖体礼儀）へ